

2002 . 11

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

ぬいぐるみ。機関車。ミニカー。どれもどこかが壊れたおもちゃを目の前に、おもちゃ病院のスタッフは腕組みをする。「何とか直せないものか」。おもちゃの構造を想像しながら、巧みに分解して修理する姿は、玄人はだした。「おもちゃ病院ピーポー」は、壊れたおもちゃを修理するボランティア活動で、週に一回白石区民センターで開かれている。「治療代」は部品代のみで工賃は無料。うわさを聞きつけて市内外からたくさんのおもちゃが持ち込まれる。

代表を務める高山^{たかやま}さんは、白石で生まれ育った生粋の白石っ子。菊水で布団を扱う商店を営んでいた両親の末っ子として生まれた。手先の器用さは両親譲りで、幼いころからドライバをいじるのが大好きだったと言う。「古くあった電気メーターをばらしたり組み立てたりして遊んでいました。ちよつと変わった子どもだったのね」と笑う。「病院発足当初のメンバーは女性のみ。ぬいぐるみはともかく、モーターが付いているものには本当に困りましたね。それでも何とか直しましたけど」。その後男性のメンバーも増え、今では総勢十一人のメンバーが、年間千個に及ぶおもちゃを修理している。だが、複雑な集積回路を内蔵したものが増えたことや部品が手に入りにくくなったこと

今月の

人

おもちゃを直すのに必要なのは想像力と根気。直った時の子どもの笑顔がたまらないの。

おもちゃ病院ピーポー代表

高山^{たかやま}路子^{みちこ}さん (五三)

(菊水在住)



で、修理自体が難しくなってきたのだという。それでも部品を自作するなどして何とか元通りにしようと、高山さんからスタッフの苦心は続く。「おもちゃが直った時の子どもがうれしそうに顔が何よりのご褒美。それまでの苦勞が吹き飛んじゃいますね」。おもちゃ病院に参加して、今年で十八年目。「長くなつたわねえ」と事もなげに笑うが、これほど長く続けるのは並大抵のことではあるまい。活動に参加し始めた時まだ小学生だった息子さんも、今では立派に成人しているという。「今日帰省してきてるのよ」。うれしそうにはころぶ高山さんの顔が母親のそれになった。

編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236